令和６年度第１回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

通常事業事前審査　議事録

日　　時：令和６年４月２４日（水）　午後５時３０分から午後９時１５分
場　　所：瑞浪市役所西分庁舎　１階会議室
出席委員：山内　正雄（委員長）、辻本　紀み子（副委員長）、富田　宏、柴田　洋子、
谷本　陽子、大宮　康一
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。
事務局：瑞　浪　市　長　水　野　光　二
みずなみ未来部長　正　木　英　二
事務局職員：市民協働課長　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　中　筬　高　弘
まちづくり支援係　大　髙　まりあ
次　　第：１．委嘱状交付
２．委員自己紹介
３．市長あいさつ
４．議題
（１）審査会の役割について
（２）本日の審査会について
（３）審査会の進め方、申請状況について
５．審査（質疑応答・市長講評）
６．事務連絡
７．閉会

【１．委嘱状交付】
市長より委嘱状を交付

【２．委員自己紹介】
≪新任の富田委員よりあいさつ≫
平中先生からこの役を拝命し、大変緊張して本日臨んでいる。皆様から多くのことを教えていただきたい。

【３．市長あいさつ】

新たに富田委員を迎えることとなり、審査会が一層充実したものになることを期待する。本日は審査をお願いするが、気付いた点については、どのようなことでも質問や指摘をいただき、より良いまちづくりにつなげていきたい。

少し前に「消滅可能性都市」が大きな話題となった。特に多治見市長は、国に対し、多治見市は消滅可能性都市ではない旨を市長会等で発言していた。当時の基準では、残念ながら多治見市、瑞浪市及び恵那市が該当していた。今回、改めて審査が行われた結果、多治見市は消滅可能性都市から外れ、恵那市は引き続き該当するグループに位置付けられた。瑞浪市については、改善が見られるとして、完全に消滅可能性都市から外れたわけではないものの、一段階上の評価となった。これは、まちづくりに関わる皆様や市民の皆様による様々な活動の成果が、改善として評価されたものと受け止めている。今後は、駅周辺の再開発や病院建設など、地域にとってのプラス要素が具体化していくことから、次回の評価では消滅可能性都市から外れることを期待している。ただし、評価基準においては人口減少、特に若年人口の減少がマイナス要因となる。このため、まちづくりによって地域のにぎわいを取り戻すだけでなく、人口減少を食い止め、さらには増加につなげていく取組が必要であると感じている。一方で、皆様の努力が一定の評価につながったことについては、皆様とともに喜びたい。

今年度は、事務局の人員を大幅に変更し、第 7 次総合計画を開始した初年度である。事務局職員を紹介する。≪順に自己紹介≫このような体制の下、事務局としても取組を進めていく。委員各位においても、まちづくりが成功に結び付くよう、指導及び助言をお願いする。

【４．議題】

（１） 審査会の役割について
（２） 本日の審査会について
（３） 審査会の進め方、申請状況等について

≪事務局より説明≫

≪質疑≫

○委員

評価は○か×という認識でよいか。

●事務局

基本的には○か×。△の場合は理由も併せて記入していただきたい。

【５．審査】

釜戸町まちづくり推進協議会（以下「釜戸」）

○委員　かまど活性化・魅力発信事業

花火協賛金口数の成果目標が 500 口（1 口 2,000 円）、釜戸の世帯数は 1,040 世帯とある。単純に考えると約半分の世帯に募る必要があるが、事業主や会社へも協賛金を募るのか。

●釜戸

町内の企業にも協賛金をお願いしている。

○委員　地域環境美化事業

花苗の配布対象に事業所とあるが、市民に配布するのが基本ではないか。事業所の庭は事業所で綺麗にするものであって、そこにまちづくりのお金を使用するのはいかがなものか。

●釜戸

当然、中心となるのは区、市民である。しかし、東濃信用金庫や施設にも協力していただき、お客様や施設の方にも見ていただくため、事業所にも配布している。

○委員

目標に前年度の１７団体を上回るとあるが、やはり市民団体を増やすと考えたほうがいいのではないか。

●釜戸

高齢化の問題などがあり、小学生の子どもたちと一緒に花苗を植える作業などを行っている。あくまでも市民が中心であり、事業所への配布は少ないため、ご理解いただきたい。

○委員　かまど活性化・魅力発信事業

夏祭りについて、参加人数の数値目標はあるか。

●釜戸

昨年度の 1,250 人を上回る人数、可能であれば 2,000 人を目標としている。内容を充実させながら、昨年参加した方の口コミなども参加につながるといい。

○委員　かまど活性化・魅力発信事業

夏祭りについて、小中学生はボランティアとして参加するのか。小中学生にはお客さんとして楽しんでもらいたい一方、ボランティアとして運営側にまわってもらいたいという思いもあると思う。ボランティアとして参加する場合、お祭りを楽しめなくなってしまうという懸念もあるが、そのあたりのバランスをどう考えているか。

●釜戸

ローテーションを組み、お客さんとしてお祭りを楽しむ時間と、運営側としてボランティアを行う時間を分けている。

＜市長コメント＞

新会長は、手堅くかつ柔軟に、釜戸町の皆さんのやりたいことを取り入れようという意欲のある方である。今回の事業は、前年度の踏襲的な事業が中心だが、この 1 年間でいろんなチャレンジをしていただき、来年には、さらに面白い事業が出てくるのではないかと期待している。この 1 年間は次につながる取組になると思う。

大湫町コミュニティ推進協議会（以下「大湫」）

〇委員

たくさんの方が利用されると思うが、トイレの設備はどのようになっているのか。また、夜間照明は時間で消えるものなのか。ずっと点いている場合、防犯上問題があるのではないか。

●大湫

グラウンドはコミュニティセンターの２階と繋がっており、コミュニティセンターには１階にも２階にもトイレがある。また、公衆トイレがお休み処のそばにあり、そこも活用している。

夜間照明はイベントなどの必要な時のみ使用する。

〇委員

ボランティア作業の保険料の計上がないが、万が一ケガをされた場合はどうなるのか。

●大湫

市の市民活動補償制度でカバーできると考えている。

〇委員

転落防止柵はどのようなイメージか。また、車止めがあると、さらに転落防止になると思うが、併せて検討はされなかったのか。

●大湫

ガードレールのような形にすると景観に影響するため、擬木（コンクリート製、鉄製、パイプ製など）のポールにチェーンを繋ぐことを想定している。車止めを設置すると、駐車場以外の活用ができなくなってしまう可能性があるため、あえて設置しない。

〇委員

支出に「原材料費」とあるが、これは何か。

●大湫

当初は法面を削り、自分たちで調達した丸太をピンで固定する想定だったが、腐食の可能性がある。このため、掘って段差をつけるのみの作業になる可能性もあるため、予算を含めて検討する。

＜市長コメント＞

大湫町は特に課題解消に焦点を絞り、夢づくり地域交付金を有効に使っていただいている。イベントを中心に活用する地域が多いが、夢づくり地域交付金は課題解消も大きな用途の１つである。大湫町は、毎回町民の皆さんで考え、大湫の課題解消に交付金を全額投入していただき、町の予算をさらに上乗せしていろんな事業をやっていただいていることは本当に素晴らしく、評価をさせていただきたい。大湫町は他の地域に負けないくらい様々なイベントをやっており、町や参加者の方々にも負担していただきながらやっていらっしゃるため、本当に頭の下がる思い。ぜひ、今年度もしっかり事業をやっていただき、より多くの皆さんが、安全にイベントができる町にしていただきたい。

陶町明日に向って街づくり推進協議会（以下「陶」）

〇委員　環境美化事業

８地区の中で唯一種から育てることで費用を抑え、その分大変な作業を継続されていることに感心している。公共施設、長寿会、交通安全協会と協力して花を植えているとあるが、市民団体や、小さなグループを募っているのか、また、今後そのようなことを検討されているのか。

●陶

一部の花壇では、個人で綺麗に育てている方がいる。そのような活動が広がっていくよう、広報誌などで周知をしたいと考えている。

〇委員　防災減災セーフティーネット事業

町内の独居高齢者の方に啓発活動をするとあるが、自治会に入っていない方を取り残さないための吸い上げ方法などは考えているか。

●陶

自治会に入っていない方については、非常に難しい問題である。今回は、区長をはじめとした方からすべての方への声掛けを行っていただき、事業の際に一緒にチラシを配り、防災、減災のための活動紹介や、「何かあったら連絡ください」と伝えることで啓発を行う予定。そのため、今回は区長が把握されている方に声掛けをお願いする形になる。

〇委員　防災減災セーフティーネット事業

具体的な災害を想定した避難訓練の実施は予定しているか。

●陶

今年度は、避難訓練の予定はしていない。大川地区の水害が発生した際に必要となる土嚢を町の人たちと一緒に作る計画を進めている。その際に、非常時に活用できるものの紹介をする予定。

〇委員

高齢者の方の避難は大変重要な問題であるが、若い方でも身体障害を持った方が避難困難者となるケースがあると認識している。そういった方とも、地域ぐるみで防災について取り組むとよりよくなるのではないか。

〇委員　文化振興事業

「陶町の中馬街道」（ミニ講演会）総会時の数値目標はあるか。

●陶

総会に参加予定の 100 人を目標とする。

〇委員

会長から、「地域を巻き込んでいく」という発言が多くあった。人口が減ったことは残念ではあるが、地域を巻き込んでいくという意味では、声をかけやすい人数かもしれない。盛大に声をかけ、皆さんを巻き込んで、地域の事業という形で取り組む方向に持っていっていただくことを若い会長に期待している。

●陶

地域計画にある空き家対策グループが立ち上がり、まちづくりの中で予算を計上している。また、寺子屋や子どもを支援するボランティアグループなど、今回の資料には載っていない取組も多くある。そういったところと連携しながら、陶町に移住した際のサポートや、文化財の利用などを発信し、呼び込むための第一歩を踏み出すことができた。来年は夢づくりの予算にそういった取組を組み込めるようにしていきたい。

＜市長コメント＞

長きにわたり、前会長が陶町をリードしていただいた。今回の説明を聞き、今までにない、或いは踏み込んだ、わかりやすいことをやるという姿勢が随所に見えた。今年１年間はスタートの時期だと思う。来年以降の様々な事業提案に期待したい。ぜひ、新会長を中心に、役員の皆さんが陶町をリードしていただき、成果の上がる事業をやっていただきたい。

日吉町まちづくり推進協議会（以下「日吉」）

○委員　日吉町活性化事業

天神窯春まつり、日吉町夏祭りともに参加人数８００人と、大変多くの方が参加しているが、参加者の内訳（町内・町外）はどうか。また、近年ボランティアや動いてくださる方が少なくなっていると思うが、どのくらいの人数で運営をしているのか。

●日吉

天神窯春まつりは、ボランティアの中学生が４０～５０人、ブラスバンドが２０人と、ボランティアだけでも８０名の参加が予定されている。日吉小学校の人数が６５名だが、まつりの様子を見ると、それよりも多くの子どもが参加しているため、日吉町の町民の皆さんより多くの方が町外、市外から参加しているのではないか。スタッフは、まちづくりの役員に加え、各地区からそれぞれブースを出していただき、区の人員を確保している。

夏祭りの参加者については、抽選会で使用したうちわが６００枚あったことから、それよりも多い人数ということで、約８００人としている。夏休みの時期でもあるため、帰省されている方もおり、町内・町外の内訳は半々ではないかと思う。

○委員　教育文化事業

青色回転灯パトロールの参加者数１００名は延べ人数か。

●日吉

参加の１００名は延べ人数。３年に１回、青色回転灯パトロールの運転者講習会があり、常時更新している。町内の各団体の方にお願いしてやっていただいており、講習を受けている約６０人の方が運転し、２名が同乗している。

○委員　教育文化事業

弁財天池の清掃と外来種駆除はどの事業として実施しているか。池の清掃や外来種駆除は環境保全に

重要な取組であり、令和 6 年度もぜひ実施していただきたい。

●日吉

教育文化事業の文化財保全活動として実施している。日吉町文化財保存会が中心となり、まちづくり委員が草刈り等を行っている。外来種により本来の景観や生態が失われるため、池に入り駆除作業を行っている。

〇委員

どのような外来種が、どの程度採取されるのか。

●日吉

大きなスイレン類などである。当地はトンボが多く集まる場所として知られ、関東方面からも撮影に訪れる方がいる。持ち込まれた写真は、コミュニティセンターで展示している。

〇委員

こうした取組や写真も、里山体験学習やお祭りなどの機会に公表するとよいと思う。

〇委員　日吉町活性化事業

10 月に「神輿・衣装の管理運営」として 2,500 円が計上されている。この額で管理運営は可能か。

●日吉

神輿と衣装は地域の女性の皆さんに管理していただいている。2,500 円は、その際のお茶代である。

＜市長コメント＞

今回発表された事業に毎年しっかり取り組んでいただいていることに、敬意を表したい。新型コロナウイルス感染症の影響も収束したため、引き続きしっかり準備していただき、町民を挙げて実施していただければ、多くの方の来場も期待できるのではないかと思う。

その中でも、現在成果が上がり始めているのが移住委員会の取組である。大洲町では成果が上がっており、その取組を参考に、日吉町でも始められ、釜戸町でも取組が進められている。また、陶町でも始められると聞いている。各地域にとって、人口減少は最も大きな課題の 1 つである。これに正面から取り組むため、まちづくり活動の最優先事項として位置付けていただいていることを大変ありがたく思う。ぜひ、市の空き家バンクとも連携し、成果につなげていただきたい。日吉町は市街地に近いという利点がある。しっかりまちづくりに取り組んでいただければ、多くの方に移り住んでいただける可能性がある。空き家も多くあり、駅までおおむね 10 分で行くことができるなど、立地上の利点もある。こうした利点を生かせば、必ず成果につながるものと期待している。

明世地区まちづくり推進協議会（以下「明世」）

〇委員　青少年育成事業

活動スケジュールにはカワニナ 50kg 購入とあるが、支出欄には 40kg 購入と記載されている。また、カワニナはどこから購入しているのか。

●明世

購入については、40kg の誤りである。生態系の問題もあるが、瑞浪地区内には大量に採取できる場所がないため、現在は岡山県から購入している。昨年度から、将来的に購入せずに済むようカワニナの育成に取り組んでいる。水槽で飼育しているが、まだ十分な量を確保できる段階には至っていない。将来は他地域に譲渡できる程度まで育成したい。

○委員

養殖と併せて、河川がカワニナの生息できる環境かどうかも重要である。川の環境が改善されれば、カワニナやホタルが自然に増えることも期待できる。将来的には、カワニナ購入費を河川環境の調査や改善方策の検討に充てていただきたい。

○委員　青少年育成事業

新しい会長には、組織に新しい風を吹かせていただけることを期待している。若い意見を発揮していただきたい。

青少年育成事業の成果目標に「明世小学校とのコミュニティ・スクール計画の 8 割を実行する」とあるが、8 割という設定は後ろ向きではないか。

●明世

これまで、10 件を計画しても、教員の都合や地域支援者との調整がつかず、2 割程度を見送ることがあった。そのため、校長と相談し、最低でも 8 割を実施する目標とした。すべて実施することが望ましいが、難しい面もある。

○委員

すべてを実施できない主な理由は、人員、時間、費用のどれによるものか。

●明世

主に時間の問題である。予算を充当していただければ、状況や事業内容も変わる可能性がある。

○委員

計画の目標であれば、「8 割」は削除してもよいのではないか。「残りの 2 割は実施しないのか」と受け取る人もいると思う。計画としては、より高い目標を掲げる方がよい。表現を工夫していただきたい。

●明世

実施しないという趣旨ではないが、御指摘のとおりである。

○委員　スポーツ推進事業

スポーツ推進事業のインストラクター費用について質問する。8 回実施したノルディックウォーキングの謝礼が 1 万円である一方、2 回開催したストレッチ講習会の謝礼が 3 万円なのはなぜか。

●明世

プロと地域の指導者の違いによるものである。ノルディックウォーキングは、これまで 1 万円で依頼していたが、値上げの要望があり、他地区の相場も調査した結果、3 万円程度が相場と判断した。一方、まちづくりの委員は本来ボランティアだが、委員会の決定により、数年前から 1 万円程度の謝礼を支給している。

〇委員

指導者に無償で依頼することは望ましくない。少額でも報償費を支給した方が意欲につながり、技術を教わる上でも適切だと考える。

＜市長コメント＞

新会長は、若い視点や新しい手法を生かし、さまざまな取組を進めていかれるものと期待している。特に、新会長自身も子育ての真っ最中であることから、青少年育成を中心に取り組みたいとの話があった。ぜひ、その手腕やアイデアを発揮していただきたい。また、まちづくりスタッフの皆さんには、新会長が活動しやすいよう支えていただきたい。会長一人では負担も大きいため、若い世代にも積極的に参加していただくことが重要である。そうすることで、新会長の思いがより具体的な形となり、実現しやすくなると考える。大いに期待している。頑張っていただきたい。

明日の稲津を築くまちづくり推進協議会（以下「稲津」）

〇委員　まちづくり推進事業

休耕田は今後さらに増えると思うが、活用の範囲を広げていく考えはあるのか。

また、現在は年配の方がボランティアの中心とのことだが、若い世代を巻き込むことも目標の一つであると思う。芋掘りなどに親子で参加した方に、その後も事業へ参加してもらい、将来的にボランティアとして関わってもらう取組は行っているのか。

●稲津

いいなっつ農園は、まちづくり組織設立当初のメンバーから無償で借りている休耕田である。休耕田の活用については、地域計画の中でも課題として話題になっている。ただし、現時点で、まちづくりの活動として休耕田を活用し、農園をさらに広げていく考えはない。今後の課題と考えている。

ボランティアを将来につなげる取組として、昨年度からサポーター登録制度を始めた。年間の作業内容を示し、協力できる方に登録していただくもので、現在の活動に関わりのない方にも登録いただいている。11 日のいいなっつ農園の事業では、前週の準備も含め、登録者に連絡して協力をお願いしている。また、昨年度、農園に「いいなっつ」と記した看板を設置した。子どもたちが苗植えや収穫を体験した場所を、将来思い出すきっかけにしてほしいという思いがある。地域の方に、稲津まちづくりが管理する農園であることを知っていただく目的もある。隣接しているコンビニエンスストアの駐車場からごみが飛んでくることがあるため、ごみを捨てないでほしいという思いも込めている。

〇委員　社会福祉推進事業

社会福祉推進事業について、社会福祉協議会、幼稚園、民生委員などが連携し、高齢者などの見守りも兼ねて事業を実施されている。

一方、他地域では、社会福祉協議会や民生委員との連携が十分に取れない場合もある。このような連携を図るため、区長会などで関係団体が集まる会議を設けて運営しているのか。

●稲津

明日、年 1 回のまちづくり通常総会を開催する。稲津町には、学校、森林組合、産業、教育、商業な

ど、さまざまな分野の 30 団体が会員として関わっており、各団体の代表者にも参加していただく。総会を通じて、まちづくりの活動内容を発信している。また、会長が毎月の区長会に参加し、事業や寄せられた意見について情報共有を行っている。

理事会も毎月開催し、区長会長にも参加いただいている。活動に関する意見を聞いていただくほか、必要に応じて助言もいただいている。支部については規約があり、総会にも参加いただいている。事業ごとに関係団体へ協力を呼びかけ、参加可能な方に協力いただいている。長年の取組により、呼びかけに応じて多くの方がボランティアとして協力してくださる状況である。

＜市長コメント＞

区長会にまちづくりの会長が出席し、まちづくりの役員会には区長会長に出席していただく中で、それぞれの活動をしっかり説明し、協力を要請するとともに周知している。このことが、地域を挙げた活動につながっているのだと改めて感じた。これからも、ぜひ継続していただきたい。

また、先ほど説明のあったサポーター制度も大変よい取組である。まちづくりの役員だけですべてを担おうとすると、役員の負担が大きくなる。役員ではないものの、意欲のある方や、退職後も元気に活動できる方は多くいるはずである。そうした方々にサポーターとして登録していただき、さまざまなイベントを手伝っていただくことは有意義である。小学生や中学生、地域の高齢者のうち元気な方にもサポーターとして参加していただくという考え方は、非常に素晴らしい。今後も頑張っていただきたい。

瑞浪地区まちづくり推進協議会（以下「瑞浪」）

〇委員　潤いのあるまちづくり事業

昨年委員になった際、前年度に購入した斜面草刈り機の資料を拝見した。今年は地区ごとに講習会を開いて使用するとのことで、稼働率も上がると思う。他地区への貸し出しは難しい面もあると思うが、瑞浪地区内で稼働率を上げ、有効に活用していただきたい。

●瑞浪

私の地元でも、公園清掃に使わせていただいた。

〇委員　安全・安心なまちづくり事業

子ども・高齢者見守りでは、けん玉やこま回しなどを企画しているとのことだが、目標人数はどの程度か。また、M ビルを利用した寺子屋は大変良い取組だと思う。1 日 15 人程度、計 75 人程度を募集するとのことだが、どのように集めるのか。また、広報や募集はどのように行うのか。

●瑞浪

実行委員会に任せているため詳細は申し上げにくいが、おそらく先着順になると思う。これまでも、まちづくり事業は募集後、先着順で実施してきた。

募集は口コミとチラシを予定している。チラシは回覧板などで回す形になると思う。口コミでもかなり集まるのではないかと考えている。

子ども見守りについては、各区の公民館や、高齢者が集まるいきいきサロンなどを活用し、こま回しなどを行うことを考えている。

人数は 5 人でも 10 人でも集めたい。初めての取組なので、対応できる人数はまだ分からない。初年度は様子を見て、次年度以降に規模を広げたい。安全にも留意する必要がある。

○委員

目標設定がないと、必要なスタッフ数など実施体制にも関わる。これまでの経験を踏まえ、「このくらい集まってほしい」という目標を設定した方が、体制をつくりやすいのではないか。

●瑞浪

私としては、多くて 1 会場 30 人程度までと考えている。

○委員　地域内の交流が活発なまちづくり事業

寺子屋事業について、課題として子どもと大人の交流が少ないことを挙げているが、教える側は中学生、高校生、大学生のボランティアとされている。大人との交流は、どのように考えているのか。

●瑞浪

ボランティアのほかに講師を招き、簡単な教室なども行いたい。単に宿題をこなすだけでなく、そのような取組も考えている。

○委員　安全・安心なまちづくり事業

土岐川健康ウォーキングのチラシが新聞折り込みに入っていた。多くの参加者が見込めるのではないか。

●瑞浪

参加者からは良いイベントだと評価されるが、人が集まりにくく、内容も地味な面がある。これまではチラシを手作りしていたが、今回は専門業者に依頼し、評判も良かった。新聞折り込みも行ったため、これで集まらなければ次の手を考える必要がある。

○委員　潤いのあるまちづくり事業

アサギマダラを目的としたフジバカマの植栽は大変面白い活動である。実際に飛来したのか、人と自然の関係づくりにどの程度貢献したのかといった評価が、予算や目的からは見えにくい。ぜひ何らかの形で記録に残していただきたい。

また、地域計画には「ホタルが育つ川にする」とある。ホタルや餌となるカワニナを放流するだけでは、人が育てて放しているだけになりかねない。川そのものをホタルが住みやすい環境にするための調査や、他地域の事例研究も必要ではないか。近隣では多治見市北帯地区などの例もあるため、川づくりにも目を向けていただきたい。

●瑞浪

その点は以前から考えている。カワニナが育てば、ホタルも育つと考えている。瑞浪のホタルの取組は他地区より早く始めたが、放流数は多くない。それでも徐々に定着しており、万尺川には可能性があると感じている。川は必ずしもきれいな状態ではなく、毎年心配になるが、季節になるとホタルが飛ぶ。やはり川そのものの環境を何とかしなければならないと考えている。

〇委員　潤いのあるまちづくり事業

ホタルやニホンミツバチについては以前から伺っていたが、今回はアサギマダラも加わり、私自身大変興味を持っている。アサギマダラはかなり南まで飛ぶ蝶だと認識している。ニホンミツバチについて、資料には飼育届とある。知人の養蜂関係の申請書類を見たことがあるが、かなり分量のあるものだった。今回届出をしたということは、今後も本格的に継続して取り組むということか。

●瑞浪

県へ百花蜜として届出を行い、許可を得ている。公式な団体として、必要な手続を行っている。なお、何度も失敗したが、昨年は蜂蜜を採ることができた。

〇委員

養蜂は大変な取組だと思う。ホタル、ニホンミツバチ、アサギマダラの 3 つの取組には大変興味がある。いずれも成功することを期待しているので、今後も頑張っていただきたい。

＜市長コメント＞

それぞれの地域計画を、これから 10 年間で実現・具現化していこうということで、4 月からスタートしていただいている。特に瑞浪地区においては、それを明確に事業計画の中に位置付け、「地域計画 2024 からの新事業」という形で銘打っていただいたことは、大変分かりやすいと感じた。地域計画を立てた成果が、このように具体的な事業の着手につながっていることを、我々も認識することができた。他の地域においても、できれば来年度からの事業計画の中にこうした内容を落とし込んでいただけると、より理解しやすくなる。審査員の先生方にとっても、理解しやすいものになるのではないか。ぜひ、成果につなげていただきたい。

その中で、ついに瑞浪地区が駅周辺に目を向けてくれたことについては、大変うれしく思う。これまでの事業は周辺部が中心であり、駅周辺にはなかなか切り込んでいただけなかった。しかし今回、初めて M ビルを活用し、ここを拠点として子どもを中心に取り組んでいただくことは、素晴らしいことである。実は、陶町では以前から、本格的に子どもたちへの指導に取り組んでいる。特に、学校教員の OB の方々が先生となり、指導を行っている先進事例がある。そうした事例について、陶町の皆さんに聞かれるとよいのではないかと思う。また、市においても、社会福祉協議会の事業や実施協議会の事業の中で、塾に通うことが難しい家庭の子どもたちを集め、宿題の面倒を見る取組を行っている。そのあたりも参考にしながら、瑞浪ならではの事業としていただければ、より良いスタートが切れるのではないか。ぜひ期待している。

土岐地区まちづくり推進協議会（以下「土岐」）

〇委員　草刈り機教室事業

前回の草刈り教室には、参加者の 1 人として参加した。最初は需要やユニフォームの必要性に疑問を持っていたが、定員いっぱいの参加者を見て、想像以上に需要があると感じた。参加者からは、「高齢の祖父母に代わり、自分たちが草刈機を使えるようになりたい」との声を聞き、今後こうした取組が必要になると感じた。ユニフォームや軍手の配付も参加者に喜ばれていた。第 2 回講習の案内やアンケートなど、1 回で終わらず次につなげている点は素晴らしい。教室には学園台から 8 名が参加していた。普

段は同じ町内でも会う機会が少ないが、参加を通じて交流が生まれた。退職後にこうした活動に関わりたいという声もあった。今後も活動が広がるよう取り組んでほしい。

●土岐

参加いただき感謝する。実際に参加した方から体験を話していただけて、大変嬉しい。

○委員　草刈り機教室事業

草刈り教室で刈った草は、どのように処分しているのか。

●土岐

公有地については、環境課と事前に相談して進める。私有地については処分が必要な場合もあるが、クリーンセンターで堆肥化のため受け入れてもらえる。こうした点も教室で説明していきたい。

今回使用する学園台の未分譲地については、土地所有者から刈り倒しでよいと言われているため、処分費用はかからない。

○委員　トレジャーウォーキング開催事業

トレジャーウォーキングの目標の 70 組は、親子での参加を想定しているのか。小学生以外も含め、どのような年代を対象としているのか。

●土岐

青少年育成部会で今後詳細を詰める段階だが、スポーツ少年団、子ども会、学校のクラスなどを想定している。中心は小学生と保護者になると思うが、中学生にも参加してほしい。

○委員　地域防災力強化事業

防災について、日本赤十字社の役員から、岐阜で避難所設営などの講習を受けても、内容を皆に伝える機会がないと聞いた。横のつながりがなく、どう活動すればよいか分からないとのことだった。以前は防災運動会などで炊き出しを担うなど役割があったが、現在は活躍の場が少ない。日本赤十字社にも声をかけ、力を借りれば新たな取組ができるのではないか。

●土岐

今年度は、各ブースで体験しながら学ぶ形を予定している。これまでは防災会を中心に進めてきたが、さまざまな団体と連携しながら進めたい。

○委員　青色回転灯防犯パトロール事業

青パトは現在、昼間のみの活動になっている。事業概要には、土岐地区の現状を踏まえた活動の見直しを検討するとあるが、具体的な課題は何か。他地区には登録者が 60 名いるとの話もあった。土岐地区では人数が少ないのではないか。今後も昼間のみの活動とする考えか。

●土岐

土岐地区で青パト活動に協力している方は 10 名であり、そのうち運転できる方は 5 名である。この人数で活動を継続することは厳しい。先週の小学校授業参観では、学年懇談会で保護者に協力を呼び掛けた。若い方の参加は難しい面もあるが、家族を含め、興味のある方には協力をお願いしている。活動内容の見直しも必要であり、今年度も継続して検討する。

〇委員

以前の夜間パトロールでは、市職員が運転し、参加者は同乗して見守る形だった。電気自動車に変わった際は、車両が大きく、運転に不安を感じる方が多かった。私も新しい車両を見学したが、運転に関する説明や練習の機会はなかった。免許を持つ方に車両の操作を教える機会があれば、運転できる方が増えるのではないか。

●土岐

運転に不安を感じる方がいたため、土岐地区では市の軽バンを使用している。ただ、自分の車なら運転できても、他の車は運転しづらいという方もいる。また、高齢者が多く、同乗者に何かあった場合の責任を負えないとして協力をためらう方もいる。こうした点も見直している。当面は昼間のみの活動とし、夜間巡回を行うとすれば、どのような形がよいかを今年度中に検討する。

〇委員

他地区では青パトをよく見かけ、登録者が 60 名いる地区もある。他地区の運営方法について情報交換や交流を行えば、参考になるのではないか。検討をお願いする。

〇委員

事業目的は青パトにこだわることではなく、青パト以外の見守りのあり方も含めて検討するという理解でよいか。

●土岐

そのとおりである。見守りはコミュニティ・スクールを中心に検討する。その上で、まちづくり事業として青パトがどのように見守りを支援できるかも含めて検討する。

〇委員　青色回転灯防犯パトロール事業

青パトは、登録をしなければ運行できないのか。

●土岐

警察の許可が必要である。

（市長補足）

運転手は講習を受け、所定の手続を終える必要がある。同乗はできるが、運転する方は定期的に警察の講習を受けなければならない。回転灯の取付けにも申請が必要である。瑞浪市では、有志の方が警察と連携し、早い時期から青パト活動を始めた。現在、市内では約 300 人が運転できる資格を持っている。

〇委員

講習を受けた上で、しっかりした体制で活動していることを周知することで、市民の安心感や有効性の理解にもつながると思う。

（市長補足）

当初は有志の方が自家用車を登録し、許可を得て活動していた。しかし、ガソリン代などの課題から、現在は公用車を使用し、自家用車は使わない形としている。私も参加したが、2 時間ほど巡回しても子どもや大人にほとんど会わないことがあった。ただ、警察からは、地域で青パトが走っているということ自体が犯罪等の抑止力になると聞いている。実際に声掛けをしなくても、活動の存在が効果につながるとのことである。

〇委員

私の住む名古屋市でも青パトは走っているが、頻繁に見かけるわけではない。それでも効果があるのであれば、活動を継続するとともに、その効果をどのように把握するかが重要だと感じる。

＜市長コメント＞

「草刈り女子」の件について、昨年度は交付金の対象としない結論となり、自主事業として取り組まれたとのことである。しかし、結果としてこれだけ大きな成果を出された。今回の評価にもつながっており、実際に活動を進めていただいている。ぜひ今後も継続していただけるとありがたい。今回は事業の内容をよく理解することができた。

また、「トレジャーウォーキング開催事業」に活用していただいているふるさとカルタは、内容はもちろん、写真や文章も素晴らしい。作成された皆さんが丁寧に調査し、調べ上げた情報が、カルタの中に凝縮されている。それぞれ小学校にも配布されているが、さらに活用できるとよいと感じていた。先ほどのプレゼンテーションでは、カルタ一枚一枚に掲載された写真の場所を、皆で実際に確認に行き、学んでいく事業を実施すると伺い、大変嬉しく思う。子どもたちの学びや成果につながる事業として、ぜひ進めていただきたい。来年、その結果を聞かせていただけることを楽しみにしている。

【６．事務連絡】

≪事務局より事務連絡など≫

【７．閉会】

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以上